薩摩川内市入札説明会

地域枠撤廃等で理解求む

18年度、条件付一般競争を試行

薩摩川内市は18年度から指名見直し（オール薩摩川内市で一体指名・地域枠の撤廃）等に伴い16日から「建設工事に係る入札制度に関する説明会」をスタートさせた。対象は同市工事参加資格業者全社で、団体別・地区別に5会場で開く。第1回は50人、17日の第2回は70人が出席、質疑が相次いだ。

冒頭、切通幸生工事検査監は「川下から入札制度改革に取り組んできた。今度は一番の川上である電子入札等に向けた改革に踏み切ることになった」と前置きし、「市は普通建設事業費16年度150億円を21年度は70億円程度に削減するとの目標を掲げている。かつてのように潤沢に工事が確保される状況ではなくなった。さらに公平性・透明性の確保から18年度『オール薩摩川内市で一体指名』することにした。地域には異論があろうが、再度元に戻すことは出来ない状況にある」と説明。

久保信治工事検査係長が「平成17年度工事検査結果の概要」。今井功司契約係長が「平成18・19年度指名競争入札参加資格者に基づく指名競争入札」の考え方と「今後の入札制度」について説明した。説明概要は次の通り（**工事検査結果概要と質疑については後日掲載**）。

(1)18・19年度県格付基準に定める「総合点」を準用し、これを「客観点」とし、新たに市の「主観点」を加えて市の総合点とする、18・19年度格付基準を決定した。これに伴い工事（土木・建築・舗装・電気・管・造園・水道の7工種）・業務委託・物品等について合併後初めて格付を行い、また建設工事では格付区分別の施工標準金額を決定した。

(2)指名競争入札では同格付に基づき、「競争性」を高めるため、指名業者数をこれまでの5社以上から、18年度は原則10社以上に指名業者数を増やす。ただし甑島地区は5社以上のままとする。

(3)指名の基本的考え方は「オール薩摩川内市で一体指名する」。300万円以上（Aランク）の土木一式工事では、甑島を含め全てこの考え方を適用する。

旧格付では、例えば祁答院地区では金額に関係なく同地区の業者7社をAランク工事（土木3000万円以上）の場合、旧1市4町4村のA22社の構成比率から11社を抽出し指名する。構成比率とは、Aの場合、川内9社、樋脇1社、入来1社、東郷1社、祁答院2社、里2社、上甑3社、下甑3社の合計22社の地区別構成比から11社を指名する。「指名回数が同じくなるように調整する」比率のことをいう。

祁答院地区での工事例の場合、新格付けでは祁答院1社、入来1社、樋脇1社、東郷1社、里1社、上甑1社、下甑2社、川内3社となる。基本的には地域枠の概念をはずし、競争性を確保し、しかも指名グループを固定しないことが原則である。

(4)同じくⓓの土木一式（200万～800万円）で樋脇地区の場合、同地区には①がいないため入来1社、東郷2社、川内地区の上位Cを入れて指名することはない。

(5)この背景には①競争性の確保②公平な受注機会の確保にある。地域別の建設関係予算にバラツキがあるなか、公平な受注機会を確保するため地域枠を撤廃した。

予報の事前公表見直しも

今後の入札制度については①電子入札の導入②条件付一般競争入札の導入③入札情報公表を変更する。この理由には「橋梁談合事件・福島県・沖縄県、近くは日置市などの入札をめぐる不正が後をたたないことから、より一層の透明性などを高める」ためと、「落札率の高止まりの指摘を受けている」との理由からだ。

電子入札は県と共同開発中で、19年度から一部試行運用し、20年度に全面的に導入を予定する。18年度～19年度は移行期間で、その移行期間は郵便入札を導入する（これまでの会場入札＋郵便入札と完全郵便入札を併用して、20年度電子入札を完全実施する）。

条件付一般競争入札＝現在の指名競争入札オンリーから20年度電子入札完全実施に向けて、同入札に段階的に切り替える。

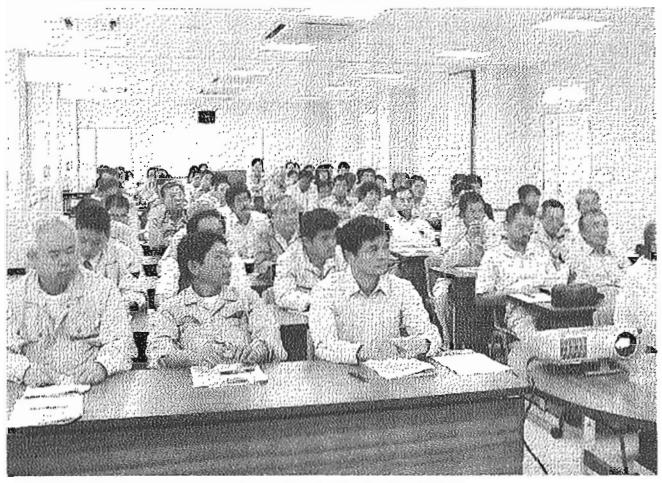
予定価格公表＝指名競争入札において段階的に事後公表に切り替える。最終的には20年度までにはすべて指名競争入札で事後公表とする。ただし、条件付一般競争入札では、郵便入札や電子入札の事務効率を考慮して予定価格は事前公表する。

入札指名業者の公表＝現在は事前公表だが、同様に段階的に対象額を引き下げる。19年度中にはすべて入札指名業者名については事後公表となる。条件付一般競争入札ではすべて事後公表となる。

条件付一般競争入札の公募＝市HPや建設新聞等で告知。閲覧図書等は簡易な図面と数量計算書はHPか予約による契約検査課からの貸与。

入札結果の情報＝入札参加業者全員の入札価格と落札経緯を公表。また随意契約についても理由付で公表を検討する。

倉園世一契約検査課長は「目指すところは工事の品質確保と適正な競争の確保、適正な受発注システムの構築にある」と理解を求めた。



密接な問題だけに出席者から質疑が相次いだ
＝17日、薩摩川内市の国際交流センターで

木陰

北 真夫

駒音

「趣味は何ですか」と尋ねられると「将棋です」と答えてはいるものの、最近は指す機会があまりない。

そもそも将棋をよく指すようになったきっかけは、中学の時、将棋部に入ったことである。かなり強い同級生がいたこともあり3年間で結構上達した。高校でも将棋部に入り、大会などにも参加して団体戦では優勝することもできた。この団体戦は3人1チーム、2人以上が勝てばそのチームの勝利というもので、1年先輩の2人に私が3人目のメンバーで加わって出場した。県予選と全国大会で合計十局ほど対局したと思うが、私個人の戦績は7勝3敗、先輩2人は全勝。つまり3人目のメンバーは誰でも同じという結果であった。

大学でも将棋部に入ったが強豪揃いで、部内のリーグ戦では結局Aクラスには昇れず終い。そうとは言え、通算すれば相当な盤数を指したと思う。夜を徹して酒を飲みながら指すこともあった。部内には日本酒を1人で二升飲んだという強者がいたことなどもあり、将棋だけでなく酒も鍛えられたような気がする。また、二組の対局が終わると、2人＋2人は4人ということで、4人で別のゲームを囲みに行くこともしばしば。もしかすると将棋を指した時間以上を費やしていたかもしれない。

就職後、将棋を指す機会はめっきり減ってしまったが、十年余り前に埼玉県内の市役所に出向した際、職員の将棋部があったので、これに参加して久しぶりに対局を楽しんだ。職団戦という職場対抗の団体戦にも参加して、日本武道館まで将棋を指しにも行った。

その後は、また将棋を指す機会がなくなっていたが、数年前から時々インターネットで対局をすることがある。ところが、久しぶりに指してみると当方の棋力の低下は甚だしく、簡単に連敗することも度々。また、相手はインターネットでつながった人間とは言え、コンピュータの画面を見ての対局は味気ないもの。やはり面と向かって、ちゃんと木の盤と駒で駒音を立てながら指したいものである。

（県土木部建築技監）

きょう、県庁で

農業農村整備事業技術発表会

萩原技研、新和技術コンサル等

本県の農業農村整備事業に有益な技術、工法等を発表する「18年度農業農村整備事業技術発表会」がきょう18日午前9時30分から、鹿児島市の県庁開発機構鹿児島センターの共催による「18年度県高年齢者雇用支援の集い」が20日午後1時30分から、鹿児島市の城山観光ホテルで開かれる。

10月の高年齢者雇用支援月間行事の一環。優良事業所として業界関係から、㈱渡辺組（渡辺紘起社長、鹿児島市）と林建設㈱（林隆秀社長、同）の2社が県雇用支援協会長表彰を受ける。

県高年齢者雇用支援の集い

渡辺組、林建設に優良事業所表彰

県と㈶県雇用支援協会、独立行政法人雇用・能力開発機構鹿児島センターの共催による「18年度県高年齢者雇用支援の集い」が20日午後1時30分から、鹿児島市の城山観光ホテルで開かれる。

10月の高年齢者雇用支援月間行事の一環。優良事業所として業界関係から、㈱渡辺組（渡辺紘起社長、鹿児島市）と林建設㈱（林隆秀社長、同）の2社が県雇用支援協会長表彰を受ける。

鹿児島市

31日、観光農業公園整備協議会

鹿児島市は31日午後2時から、同市のみなと大通り別館で第1回鹿児島市観光農業公園整備協議会を開く。

九州7県の建設情報をネットワークで結ぶウェブ九州誕生!!

◆Web九州 福岡・大分・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島の九州7地区の情報を網羅する入札情報配信サービス

◆Web福岡 福岡県内の国・県・市町村の建設関連の情報を網羅する建設ネット

無料体験キャンペーン実施中!! kyusyu@web-kyusyu.com

有限会社ウェブ九州 〒812-0017 福岡市博多区美野島3丁目13-2 TEL 092(414)0160・FAX 092(414)0166 URL:http://www.web-kyusyu.com